

2016年5月10日

## 2015年度採択 研究推進プログラム（科研費連動型）研究成果報告書

採択者	所属機関・職名：経営学部 教授 氏名：佐藤典司
研究課題	地域ブランドのデザインマネジメントプロセスに関する実証的研究

## I. 研究計画の概要

平成27年度科学研究費助成事業－科研費－申請時の研究計画について、概要を記入してください。

本研究では、平成23年度から本研究代表者が主催している滋賀県伝統産業ブランド創造プロジェクトを対象事例として、ブランド商品の開発および市場流通プロセスに関与するさまざまな参加者間の意思伝達や実践活動を参与観察およびインタビューにて調査分析し、以下の点を明らかにすることで、地域ブランドのデザインマネジメントプロセスのモデル構築を行う。

【Phase 1】地域ブランド商品の開発プロセスについての調査・分析  
地域ブランド商品の開発プロセスにおいて、どのような参加者によるネットワークが形成され、そこでどのような意思伝達、実践活動が行われ、そこにどのような役割が生起し貢献するのかについて参与観察を行い、特徴的な参加者を特定しインタビュー・発話分析を行なうことによって明らかにする。  
【Phase 2】地域ブランド商品の市場流通プロセスについての調査・分析  
地域ブランド商品の市場流通プロセスにおいて、どのような参加者によるネットワークが形成され、そこでどのような意思伝達、実践活動が行われ、そこにどのような役割が生起し貢献するのかについて参与観察を行い、特徴的な参加者を特定しインタビュー・発話分析を行なうことによって明らかにする。  
【Phase 3】地域ブランドのデザインマネジメントプロセスのモデル構築  
Phase 1・Phase 2での参与観察およびインタビューによって得たデータを分析・解釈し、地域ブランドのデザインマネジメントプロセスのモデル構築を行う。

## II. 研究成果の概要

研究成果について、概要を記入してください。

本研究は、滋賀県の伝統工芸・モノづくり職人、および立命館大学 DML（デザインマネジメントラボ）とのコンソーシアムである「マザーレイクプロダクツ」とデザインオフィス「キギ」とで、伝統・地場産業のノウハウをいかした新商品 KIKOF の開発を行なうことで、地域ブランドのデザインマネジメントプロセスのモデル構築を行うものである。本年度は、平成25年度、26年度の商品開発に続き、新たに、麻のエプロン、浜ちりめんのサシェ、信楽焼のキャンドルスタンド、花瓶、スープ皿などを開発した。また、伝統産業振興に資する新たな試みとして、東京での展示会、都市顧客の体験型ツアー、地元での展示会などを実施し、伝統産業精製品に対する都市顧客の反応、地域文化と伝統産業製品振興の結びつき、地元の人々の伝統産業に対する意識の検証などを行った。結果、成果として、「マザーレイクプロダクツ KIKOF」プロジェクトは、そのデザイン性の高さと、地域の発展に寄与する活動が評価され、2015年度 ADC（アートディレクターズクラブ）賞の最高賞であるグランプリを授与された。ADC 賞は、プロモーションおよびグラフィックデザインの分野で、国内でもっとも権威があるとされる賞である。また、全国の地域創造活動を伝える情報誌「事業構想」にも、その活動の様子が詳しく紹介された（「月刊 事業構想」（事業構想大学院大学出版部）2016年3月号 114~117P）。本研究は滋賀県の地域伝統産業振興を目的としてスタートした研究活動であるが、地域や地元の人々との連携による研究活動の推進によって得たこうしたノウハウや知見を、今後とも、Web サイト「Mother Lake」による情報発信や、論文、書籍の出版、講演活動などによって広く伝えてゆきたい。